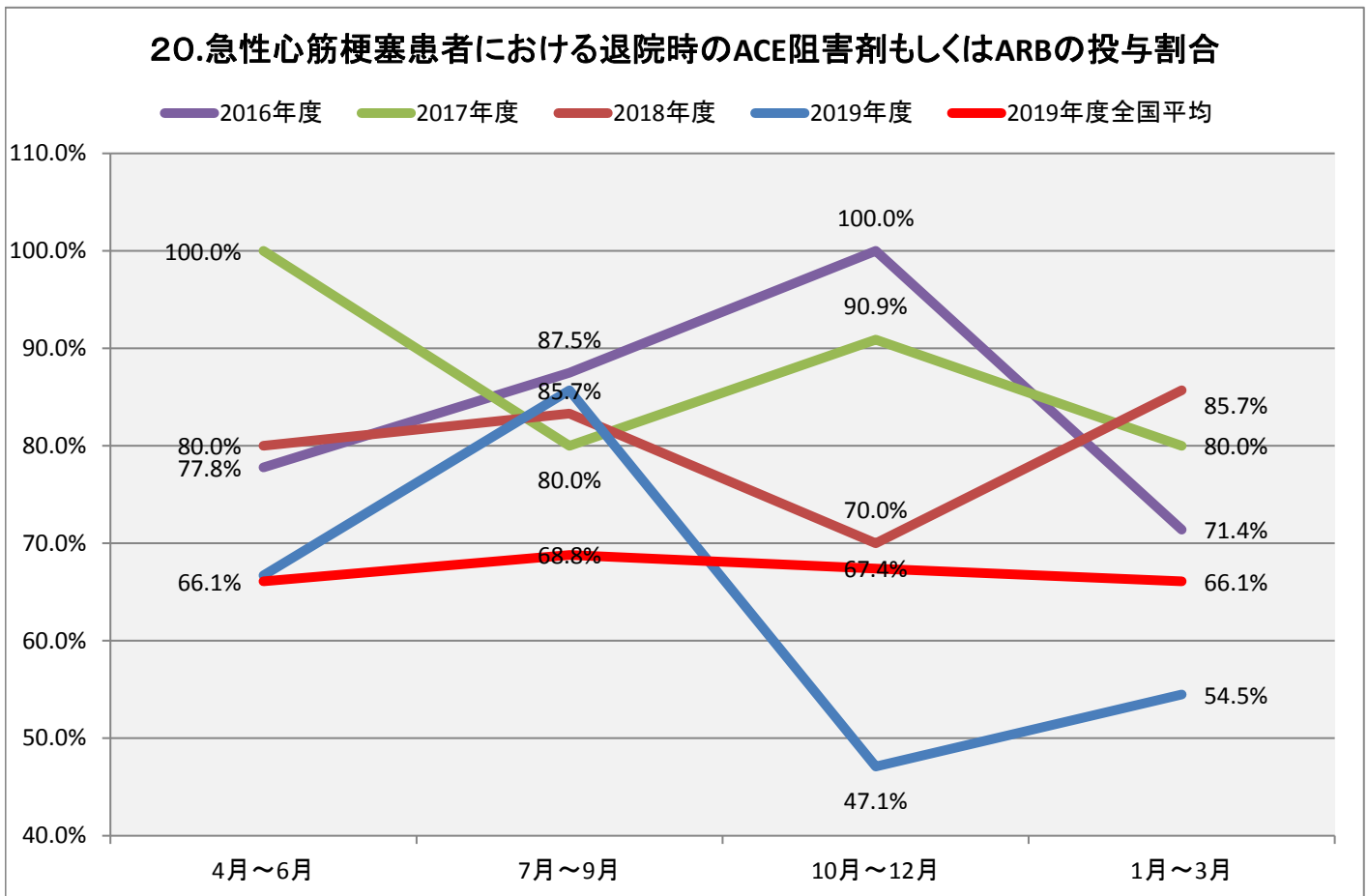


20.急性心筋梗塞患者における退院時のACE阻害剤もしくはARBの投与割合

(1) 調査結果



調査期間	4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月
2019年度	66.7%	85.7%	47.1%	54.5%
2018年度	80.0%	83.3%	70.0%	85.7%
2017年度	100.0%	80.0%	90.9%	80.0%
2016年度	77.8%	87.5%	100.0%	71.4%
2019年度全国平均	66.1%	68.8%	67.4%	66.1%

(2) 指標の説明

急性心筋梗塞は、通常発症後2～3ヶ月以内に安定化し、大多数の患者さんは安定狭心症または安定した無症候性冠動脈疾患の経過を辿ります。心筋梗塞発症後の長期予後を改善する目的で、抗血小板薬、β-遮断薬、ACE阻害薬あるいはアンジオテンシンⅡ受容体拮抗薬(ARB)、スタチンなどの投与が推奨されています(日本循環器学会ガイドライン)。この処方率は海外の医療の質の評価指標としても採用されており、広く認識された指標であるといえます。

(3) 定義

分子: 分母のうち、退院時にACE阻害剤もしくはアンジオテンシンⅡ受容体阻害剤が投与された患者数
 分母: 急性心筋梗塞で入院した患者数